

令和元年6月17日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K14365

研究課題名（和文）持続可能性からみたアメリカ西海岸の近代建築思潮の形成と発展に関する研究

研究課題名（英文）Research on the formation and development of modern architecture thought of the American West Coast from the viewpoint of sustainability

研究代表者

末包 伸吾（Suekane, Shingo）

神戸大学・工学研究科・教授

研究者番号：10273757

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アメリカ西海岸を対象に、そこでの建築思潮の形成と発展過程を、地域性と標準化の呼応という、従来、相容れないとされてきた点に着目し、その特性を導くことにより、環境との呼応という建築の持続可能性のあり方とその現代的意義を建築意匠論の点から明らかにした。特に本研究では、アメリカ西海岸の近代建築を主導した建築家ノイトラの建築思想について幅広く総合的かつ相対的に取り扱い、これまでの研究成果との比較から、彼の思想を位置づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アメリカ西海岸における近代建築の形成過程は、住宅を中心とし、その形成当初から、むしろ標準化とともに地域性を重視した建築、環境との呼応と重視した建築を創出してきた。近代建築は一般的に合理性を重んじた均質化・標準化された建築の創出を行ってきたとされるが、それは世界の画一化を招くという事態に陥ることとなる。建築の、そして地域の持続可能性が求められる現在、アメリカ西海岸における近代建築思潮の形成と発展過程の特性を明らかにすることにより、建築意匠論の立場から、今後の持続可能性のための視座を得た。

研究成果の概要（英文）：In this study, targeting the West Coast of the United States, the formation and development process of architectural thought there, focusing on the point that has conventionally been contradictory, the correspondence of regionality and standardization, leads to its characteristics, and the environment and it is clarified from the point of the architectural design theory how the sustainability of the architecture, that is the harmony of the two, and its modern significance are. In particular, in this study, the architectural ideas of architect Noytra, who led modern architecture on the American West Coast, were treated in a comprehensive and relatively comprehensive manner, based on comparison with previous research results. Positioned his thought.

研究分野：建築意匠

キーワード：ノイトラ アメリカ西海岸 近代建築 持続可能性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アメリカ東海岸における近代建築の形成過程が、オフィスを中心とし、均質化・標準化を志向した建築を創出してきたことに対し、アメリカ西海岸における近代建築の形成過程は、住宅を中心とし、その形成当初から、むしろ標準化とともに地域性を重視した建築、環境との呼応と重視した建築を創出してきたという大きな差異がある。世界の近代建築は一般的に合理性を重んじた均質化・標準化された建築の創出を行ってきたとされるが、それは世界の画一化を招くという事態に陥ることとなる。建築の、そして地域の持続可能性が求められる現在、アメリカ西海岸における近代建築思潮の形成と発展過程の特性を明らかにすることにより、建築意匠論の立場から、今後の持続可能性のための視座を得るものである。

一般に近代建築、特に「インターナショナル・スタイル」は、標準化・規格化を重んじ、地域性を廃した建築表現とされ地域環境との呼応の欠落が指摘されることが多い。しかしアメリカ西海岸の近代建築は、標準化と地域性との呼応をもとに展開されてきたという仮説を筆者は有している。これは申請者のこれまでのルドルフ・シンドラーやリチャード・ノイトラ等に関する学術著書・論文26編での検討を通じてのものである。アメリカ西海岸の近代建築は、ロサンゼルスを中心に発展するが、ロサンゼルスは、降雨が少なく高温という厳しい環境化において、当時の技術の制約下で、人が健康で快適であり続けられる環境の創出が求められた。またロサンゼルス近代建築を先導したシンドラーやノイトラ、さらにケース・スタディ・ハウス・プログラムに参与した建築家群は、終始、厳しい環境条件と、建築における標準化という技術的制約のなかで、建築とこれらの条件とを如何に呼応させるかに意を払い続けてきた。すなわち、環境と呼応する建築という、環境への志向性を強く打ち出したロサンゼルス近代建築の作品群の意義を、その質の高い建築作品に求めることはもちろん、作品群を作り出す根幹となる建築家たちの思想の中に見いだすことは、持続可能性が強く叫ばれる現代にあって再検討する価値は大いにあるものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究課題は、アメリカ西海岸の近代建築を代表する建築家リチャード・ノイトラを対象に、彼らの建築思想に関する分析を、環境との呼応という観点から総合的に検討を行うものである。特に建築思想については、そこで展開される彼の環境との呼応という思想の本質を析出することを中心に、そうした思想がいかに空間化されているかを建築作品の分析で検証することにより、環境との呼応すなわち持続可能性の観点から、アメリカ西海岸の近代建築思潮の特質を明らかにし、その現代的意義を示そうとするものである。

リチャード・ノイトラ(Richard Neutra, 1892-1970)は、ロサンゼルスを拠点とし、独立住宅を中心に、集合住宅、公共建築、都市計画にいたる広範で質の高い設計活動を行い、数々の著書を残した建築家として、フランク・ロイド・ライトとともにアメリカ近代を代表する建築家とされる。1929年に竣工したノイトラの最初期の作品「ロヴェル邸」は、「インターナショナル・スタイル」の実例の一つとされ、ロサンゼルスという、降雨が少なく高温という環境において、当時の技術の下、人々が健康で快適であり続けられる空間の創出を企図したものであり、そのことは、本作品の別称「健康住宅」からも伺える。さらに、彼の代表作品「砂漠の家(カウフマン邸(1946))」などに示されるように、ノイトラは終始、近代化の進展する状況のなかで、厳しい環境条件と建築とを如何に呼応させるかに意を払い続けてきた。

特に彼が 1954 年に著した『Survival Through Design』は、彼のそれまでの建築活動、「ほぼ人生に相当する(almost a lifetime)」ものを総括し、自身の建築思想を「survival」というタイトルのもとに示したものであり、フランス、ドイツ、イタリア、そしてスペインでも訳出された彼の主著とされる。しかし、クルフトの言及どおり、「読むことが困難な繰り返しが多いもの」でもあり、それを明確に整理し、総体的かつ相対的に把握することで彼の建築思想の一端を開示すべく、本研究の構想へと至った。

フォーティンによれば、約 500 年続いた、建築における「自然」というカテゴリーへの思考が唯一中断されたのが、20 世紀初期から中期にかけてであり、彼の言に従えば、モダニズムの全盛期において「自然」は放置され、1960 年代以降の「自然」は環境保護運動を下にし、概念的には「作りなおされた」ものである。このモダニズムの全盛期において「自然」への検討がなされたものこそ『Survival Through Design』なのである。それまでのアメリカにおいては、ホーレーショ・グリーンやルイス・サリヴァンにおける、19 世紀から 20 世紀初頭にかけての論考群があり、その後は、フランク・ロイド・ライトにより自身の建築思想として数多くの著作が上梓された。しかし、彼らはいずれもアメリカでは東海岸を中心に活動し、彼らの「自然」への思想も 20 世紀初頭における見解にとどまり、同時に、アメリカ本土はもとより、アメリカ東海岸の地域性への対応も色濃く反映されていると考えられる。一方、アメリカ西海岸の近代建築を先導した建築家が、シンドラーとノイトラであることは周知のことであろう。論考の発表が少なかったシンドラーに比べ、ノイトラは、多数の著書を発表し、彼の建築観を広く示していた。こうしたことから、彼を、アメリカ西海岸を中心に、その独自の環境下での思想形成を行った主導的な建築家であり、同地の地域性に応じた建築観を網羅的に披瀝した建築家と位置づけることもできよう。

3. 研究の方法

ノイトラの『Survival Through Design』に示された全論考を対象に、主題となる言説を抽出し、その主題のキーワードをいくつかの項目として示し、これらを主題の内容の階層構成という視点で分析し、それに即して、ノイトラの『Survival Through Design』における建築思想を、総体的かつ相対的に把握することを目的とするもので、特に本稿ではその主題の一つ、彼の時代認識に関する思想の特質を検討する。筆者は、これに準じた視点や分析方法により、シンドラーの建築思想を、彼の時代認識や空間構成の理念や方法、彼が提起した「空間建築」について検討を行ってきた。本稿は、こうしたシンドラーとともに生涯に渡りロサンゼルス近代建築を先導したノイトラについて、シンドラーの建築思想の分析の視点や方法に準ずることで、ノイトラの建築思想の特性の一端の開示だけでなく、将来的にはシンドラー等との比較検討を行い、広くロサンゼルス近代建築の建築思潮として、その特性を導くことも企図している。

建築家の思想を、その言説に即しながら検討する方法は数多く試みられている。本稿では、序章を加えた 48 章の約 400 ページにわたる大部の著書『Survival Through Design』を対象に、その内容やその位置づけを総体的・相対的に把握するため、奥山らの一連の研究を参考¹⁾²⁾にした。具体的には、『Survival Through Design』から、ノイトラの時代認識に関する言説、空間概念、さらに建築家の具体的展開としての方針や手法にいたる、彼の論考から主題となる言説を抽出し、主題のキーワードを、KJ 法を参考に、いくつかの項目として整理するとともに、意味の階層構成という視点で検討した。抽出した主題は、章毎にナンバリング(一部は 2 つの主題があるため枝番を付加する)を示す。これにより 48 章から 1267 の言説が主題として抽出

され、それらの主題に基づくキーワードは61の項目に整理され、主題の内容を意味の階層性の視点から検討した結果、全体では、第1から第5水準の項目に分類された。中でも、第1水準としては、「時代認識」、「生理学的空間(biological space)」、「社会学的空間(sociological space)」、「建築家としての職能」の4項目が導かれた。

4．研究成果

本研究は、アメリカ西海岸を対象に、そこでの建築思潮の形成と発展過程を、地域性と標準化の呼応という、従来、相容れないとされてきた点に着目し、その特性を導くことにより、環境との呼応という建築の持続可能性のあり方とその現代的意義を建築意匠論の点から明らかにした。特に本研究では、アメリカ西海岸の近代建築を主導した建築家ノイトラの建築思想について幅広く総合的かつ相対的に取り扱い、これまでの研究成果との比較から彼の思想を位置づけた。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

末包伸吾、『Survival Through Design』の論考の主題にみるリチャード・ノイトラの【時代認識】における《環境》と《文明》、日本建築学会計画系論文集、Vol.82, No.738, pp.2113-2122, 2017.08

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。